

試聴会・訪問記掲載

河口無線ハイファイディリティ試聴会報告(2017.12.16)

フェーズメーションの新製品管球モノラルアンプ「MA-1500」とモノラル仕様 MC
トランス「T-2000」の試聴会に行ってきました。

日時：12月16日(土) PM1:15～PM3:00

会場：3F ハイファイディリティ試聴室

<使用機材>



フェーズメーション モノラルパワーアンプ MA-1500 ¥1,728,000



フェーズメーション モノラルMCトランス T-2000 ¥972,000



フェーズメーション モノラルプリアンプ CA-1000 ¥2,700,000



フェーズメーション MCカートリッジ PP-2000 ¥475,200



フェーズメーション モノラルフォノイコライザーアンプ EA-1000 ¥972,000



B&W スピーカーシステム 802D3 ¥3,672,000



当日のセッティング

<試聴の経過>

フォノイコライザーアンプは EA-1000 の他に EA-300 と EA-500 も使用され、MC トランスは T-2000 の他に T-500 も使用されました。試聴は T-2000 と MA-1500 の技術解説を交えながら進行了しました。

最初は EA-500 でスタートし、ビッグバンドとブルッフの V 協がかけられましたが、非常に透明度の高い、抜けの良い音で、鮮度感がありました。

次にバランス接続とアンバランス接続に比較ということで、フォノイコライザーアンプを EA-300 とし、アンバランス接続で女性ボーカルを聴いたあと、T-500 を加えてバランス接続とし、ついで内臓トランス付きの EA-1000 のバランス接続という順で聴いていきました。EA-300 でアンバランス接続からバランス接続とすると音の強調感がなくなって柔らかいナチュラルな音に替わり、さらに EA-1000 のバランス接続とすると、音に張りがでてディテールの再現も向上しました。ここで T-2000 を加えて EA-1000 の MM ポジションで聴ききみますと、さらに音に張りが出て声の質感も向上しました。

この条件でチェンバロ曲を聴きましたが、精度の高い音が出ていることは分かりましたが、音量が大きすぎて、チェンバロの繊細感を十分に確認することができませんでした。

この後、教会録音でのサクソとパイプオルガンのジャズ、ギター伴奏のボーカル、ムターのカルメン幻想曲、Take 5 の初期盤などがかかりましたら、教会のエコーの出方、ギターのエッジの効いた立ち上がり感、ムターのビブラートの効いたボウイングなどがリアルに聴けましたし、Take 5 も古い録音ながらそれなりの鮮度感が出ていました。

ここでケルテス指揮ウイーンフィルのアイネクライネのモノラル盤を聴いてみようということになって、まずはステレオのカートリッジで聴いたあと、モノラル用カートリッジにすると中抜け気味の音がしっかり中央に集まるようになり、さらにデッカカーブにしますとより明晰でバランスの良い音になりました。ここで同じ録音のステレオ盤に替えてステレオ用カートリッジで RIAA カーブに戻しますと、やはりステレオフォニックな響きの良さが戻ってきました。

最後は、森進一の録音時の直接ビニル盤に切った検聴用の盤を聴きましたが、マスターテープの音そのものではないかと想像させるような生々しい音がしていました。

<まとめ>

同社の目指す音の鮮度は、どの組み合わせでも確認でき、バランス接続のメリットやトランスを入れるメリットのデモも説得力がありました。

また、MA-1500 はアナログ入力部の特性を描き出し、ニュートラルでノイズ感もない素直な音のするアンプのように感じました。

以上

